



<団体情報>

名称：特定非営利活動法人ふうどばんく東北 A G A I N
 設立：2008年11月14日（法人設立登記 2009年7月22日）
 住所：〒981-3341 宮城県富谷市成田8-1-1
 連絡先：
 TEL：022-779-7150
 FAX：022-774-1410
 メール：
 URL：https://www.foodbank.or.jp

代表理事：地主 雅信

副代表理事：齊藤 きえ子、高橋尚子、富樫花奈

理事：白木 福次郎、新沼鉄也、深野せつ子

監事：吉野 潤一

<団体名の由来>

設立時、東北初のフードバンク団体だったことと、東北の地域性や風土に根ざした事業展開をしていきたいという思いから、「ふうどばんく東北 A G A I N」と名付けました。
 「A G A I N」は「あがいん」と読みます。英語の意味としては「再び」という意味もあります。「あがいん」とは東北弁で「お食べ下さい」（あがらいん）を意味します。
 皆様からお預かりした食品を再度「あがらいん」の気持ちを込めて、困った方々にお配りしたいと思います。



あ が い ん
AGAIN
ふうどばんく東北

このパンレットは愛知揆一福祉振興会『みやぎ社会貢献大賞』、リコー社会貢献クラブ『Free Will』の寄付により作成しました。



当団体の活動理念は「SDGs（持続可能な開発目標）」に合致します。

支援を受けたい

● 個人の方

当団体は、自治体や社会福祉協議会など各種支援団体と連携して支援を行うため、個人からのお問い合わせの際、確認をさせていただくことがあります。

病気、ひとり親世帯、急な減給・失職などで緊急の支援が必要な方はまずはご連絡、ご相談ください。

必要な方には、適切な支援団体等を紹介することもできます。

●お電話でのお問合せ

022-779-7150

●FAX でのお問い合わせ

022-774-1410

※FAX でのお問い合わせの場合、「食料支援申請書」に必要事項を書いて当団体宛にお送りください。
「食糧支援申請書」はふうどばんく東北 AGAIN のホームページから入手できます。

● 福祉施設・団体の方

まずはお問い合わせください。協定書を取り交わした上で、食品提供を行います。

協定の内容は、食品の安全を確保するためにお互いが責任を持つこと等です。



● 各相談機関の皆さま

各相談機関に要支援者から食糧支援の相談があった際の「食糧支援申請の手順」について（ご協力のお願い）

当団体は、生活困窮者、シングルマザー、DV 被害者、障害のある人など社会的に弱い立場にある人たちが食べられない状況にある時、緊急の食糧支援を行うフードバンク活動をしています。また食糧支援にとどまらず、その方の背後にある様々な課題や問題を解決すべく適切な支援機関に繋ぐ活動もしています。食糧支援を通して各種専門機関や団体と連携し、困っている方・生活困窮者の生活全般を包括的に支援できるセーフティネットの構築を目指します。

各相談機関に要支援者から相談があった場合、相談機関の皆さまは支援の一つのやり方として食糧支援を適切に使用して頂くため、以下の手順 で連携をお願いしております。ご理解とご協力をお願いいたします。

■ 食糧支援の流れ

(1)「食料支援申請書」の記入・送信

相談者は要支援者から、食べる物が無くて、食料が欲しいといった相談を受けましたら、AGAIN 所定の『食糧支援申請書』に沿って要支援者にヒアリングし記入の上、FAX 送信ください。
また FAX 送信後、AGAIN へ確認の電話連絡をお願い致します。

(2) 支援の決定

電話の際、AGAIN スタッフと相談機関の担当者として、本人の状況などを確認させていただき、こちらの支援の決定の有無を決めさせていただきます。加えて、取りに来ていただく日時、またはお届けにあがる日時を、ご本人と相談機関などと打合せの上、決めさせていただきます。

※現在、年間のべ3万5千人に食料をお届けしております。当団体だけでは、人員面と活動資金面に限界がございますので、基本的には相談機関の方に AGAIN 事務所まで食糧を取りに来ていただくことをお願いしております。連携のご協力を、どうか宜しくお願い致します。

(3) 食糧を相談機関の方にお渡し

※相談機関を通して依頼いただいた場合は、食糧のお渡し・お届け先は相談機関とさせていただいており、相談機関 から要支援者にお渡しいただいております。

(4) お渡し内容の確認

お渡しする際、『配達記録表』（伝票）に記載している食品と数量に相違がないかを、相談機関の方と一緒に中身の確認をお願いしております。

(5)「配達記録表」に相談期間担当者がサイン

中身の確認が済みましたら、相談機関担当者に『配達記録表（原本）』に預かりのサインをいただきます。この際の『配達記録表』は2枚複写になっておりますので、その内、原本は AGAIN スタッフが保管します。

(6)「配達記録表」を相談機関がコピー

『配達記録表』を、相談機関のほうで、1枚コピーしていただき、計2枚準備していただきます。

(7) 食料を本人へお渡し

食糧を、相談機関担当者からご本人にお渡ししていただきます。
※要支援者宅にお届けにあがるか、取りに来ていただくかは、相談機関とご本人との打合せで決めて下さい。

(8)「配達記録表」に本人がサイン

要支援者に食品をお渡しする際に、『配達記録表』（複写版2枚両方）にご本人から受取りのサインをいただき、内1枚を要支援者ご本人へお渡しし、もう1枚を、相談機関担当者が持ち帰り、その用紙を AGAIN 事務局に FAX または、PDF にてメール送信下さい。

※『配達記録表』には、注意事項やお約束事項が書かれていますので、必ずご本人の手元に1枚お渡し下さい。

※この要支援者の受取りサインが記入された『配達記録表』の受領をもって報告とさせていただきます。

以上をもって、一連の流れが終了となります。

支援をしたい

● ご寄付

①お金を寄付したい (1,000 円から)

ネットでのお申し込みは
下の QR コードから



②マンスリーサポーター として寄付したい (1,000 円から)

ネットでのお申し込みは
下の QR コードから



③会員として会費を払う 賛助会員 (年 1 口 ¥1,000 ~) 正 会 員 (年 1 口 ¥5,000 ~) 法人会員 (年 1 口 ¥10,000 ~)

ネットでのお申し込みは
下の QR コードから



● ボランティア

フードバンク活動を進めるためのボランティアを募集しています。
ご都合の良い日程・内容でお手伝い頂くことができます。
参加希望の方はお気軽にご連絡ください。

ボランティアの例

- ・事務所・倉庫での作業ボランティア
- ・配送ボランティア
- ・食事提供会や各種イベントへの参加ボランティア



● 食品提供

①個人の方

提供いただきたい食品例

□消費期限の無いもの
米 (昨年度産・変色・匂い移りのないもの・虫のついていないお米)
砂糖 塩 茶葉

□消費期限が1ヶ月以上できる常温保存可能なもの
海苔 缶詰 レトルト食品 菓子 ジュース 味噌 醤油
インスタントコーヒー おかし

※未開封・未使用品・保存状態の良いものに限りです。

※保存状態によって虫食い・破損等が懸念される場合、お断りすることがあります。



直接事務所にお持ちいただく場合

富谷市成田の事務所でも随時受付中です。

土日祝を除く平日月～金の 10:00～17:00 の間であればいつでも受付可能です。

郵送でお送りくださる場合

ご寄附いただく食品の当団体までの配送料は、原則として食品提供される方にご負担をお願いしています。
大量または重量のある食品など宅配で送ることが難しい場合はご相談ください。

送付先

〒981-3341 宮城県富谷市成田 8-1-1
特定非営利活動法人ふうどばんく東北 AGAIN 事務局宛
022-779-7150

フードドライブにお持ちいただく場合

商業施設やモールなど、最寄の店舗に設置してあるフードドライブにて食料品の寄贈が可能です。また仙台市フードドライブなど自治体が開催しているものもあります。
詳しくは自治体 HP でご確認ください。

フードドライブ 設置店

ネットトヨタ太白286店 ネットトヨタとみや大和店
エスパル仙台 イオンモール利府 Branch 仙台
など各所で実施しています。

②企業・団体さま

企業・団体などから広く食品を募ります。食品を扱っている企業からは、袋破れや賞味期限が近付いた食べるには問題のない食品の提供を受け、検品して使用します。
また食品を扱っていない企業でも備蓄食料の提供が可能です！
お気軽にご相談ください！

フードドライブ
実施自治体



あがいんの活動

①フードバンク事業

①さまざまな理由で発生する食品廃棄物のうち、可食部分（食品ロス部分）について、食品関連事業者や一般家庭などから寄贈を受け、それを地域の福祉的な利益のため再活用する活動です。仙台市内、宮城県内の各種NPOやボランティア団体約400団体と連携して、生活困窮者を多方面から支援しています。また、東北地方を中心に全国のフードバンク団体と連携して、食品の有効活用やフードバンクの発展に向けた活動を行っています。

★食品の受け取り：一般家庭、フードドライブ活動による受け取り、団体・企業様からの受け取り

★食品の配布：ご家庭、福祉施設等、路上生活者（炊き出し活動）、その他連携団体（こども食堂や被災地支援団体、母子福祉会、留学生支援など）

②困りごと支援

食料の支援だけでは解決しない個々が抱える問題を各種相談窓口に繋いだり、現地訪問して支援します。

③勉強会

生活困窮を根本的に立て直し、課題解決をお手伝い出来るよう、ボランティアや福祉関係者向けに定期的に講師を招き、ケース会議や勉強会を行っています。

④フードバンクに関する講演活動や出前授業など各種承ります！

学校や企業さん、こどもから大人まで知って欲しいあがいんの活動・・・そしてフードバンクの事。「私にも出来るかも？」そんなヒントになるようなお話をしに、あがいんのおばちゃんたちが伺います！お気軽にお問合せください。

⑤フードバンクのネットワーク構築活動

フードバンク普及活動のため、全国の色々な団体と連携・加盟し活動を展開しています。

連携・加盟団体：

全国食支援活動協力会、地方創成SDGs官民連携プラットフォーム、全国フードバンク推進協議会、みやぎ県こども食堂ネットワーク、子ども未来アンバサダー、こども食堂ネットワーク（NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ）、公益財団法人日本青年会議所東北地区協議会 など



②コミュニティ事業

①こども食堂（おやこ食堂）「JINA 食堂 - みんなあがいん -」
富谷市の居場所作りとして、「こども食堂（おやこ食堂）」などを開催し、地域のコミュニティづくり、地域の拠り所として活動を行っています。

②フードパントリー

ひとり親世帯を中心に食料の配布会を行っています。

③「AGAIN CAFE」

カフェ・ランチ営業・お弁当オーダー・委託販売・フリースペース・駄菓子屋
ゆっくりまったり、おばちゃんたちが営業中。おしゃべりとランチにどなたでも遊びに来てください♪
月・水・金 10:00～17:00（現在はコロナの影響により休業中）

④お弁当支援

見守りとフードロスの有効活用のために、お弁当配食も毎週水曜日行っています。

⑤寺子屋の開催など

③SDGs推進活動・その他の活動

①SDGs推進活動

フードバンクの対面してきた社会的な問題とSDGsの課題解決に向けた活動は連動しています。このためSDGs実現に向けた活動や講演も行っています。

②ゼロカーボン推進に向けた取り組み

日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は現在600万トン（※）。捨てられる食品の無駄を無くせば、炭素も削減される・・・あがいんのある富谷市のゼロカーボン戦略にもフードロスの観点から協力しています。

あがいんの活動



高橋尚子さん

「食べられない人が減るといいな」

「みんなのマルシェ」で富樫さんがすごく忙しそうで。「え、これひとりでやってるの？手伝うよ」って。もともと自分でもイベントをやったりしていたし、こういうことしたいと思っていて、富樫さんとすぐ意気投合しました。そうしてじょじょに AGAIN の活動に加わるようになっていきました。

仙台出身です。5年間、関東で化粧品の仕事をしていましたが、子育てをしながらフルタイムで働く経験をして、こどもといられる時間がどれだけかかえがなないかを思いしらしました。人を育てるといのは自分がこれまで経験したことのない偉大なことでした。そして育てるといことは常に食とつながっていて、そうした意味で食の大切さを痛感します。AGAIN にかかわるようになって、「もう3日食べていない」とか、現代にこんな人がいることに衝撃を受けました。

母としてこどもに食べさせられないのがどれほどつらいことかわかります。食べられなくなった家庭環境は負の連鎖を引き起こします。食べられない人が減るといいなと思って活動をつづけています。



富樫花奈さん「他人事とは思えない」



東京でエンジニアをしていました。子育てをしながらリモートワークで昼夜問わず仕事をしていたんですが、子どもがしょっちゅう熱を出したり病気になったりで周りに頼れる人がおらずいつも不安で、同じような悩みをかかえた子育て世代が気兼ねなく行ける居場所を作りたいとずっと思っていました。夫の希望で地元の宮城へ引っ越すこととなった時、これまでの生活を全てガラッと変える必要があり躊躇もありましたが、夫が「宮城に行ったら何でも好きなことをすればいい」と言ったところで「そうしよう」と思ったのが全ての始まりで現在に至ります。笑
宮城に来て自宅の敷地内にログハウスを建てて、こどもと母親の居場所づくりをはじめました。そんなときに出会ったのが「ふうどばんく東北 AGAIN」。近所で見かけて、何をしたらいいのかと悩んでいました。笑
それがフードバンク活動をしているところだと知って、みんなにも何をしているところなのかを知ってもらおうとフードボックスを預かって食料を集めたのが最初でした。翌年の 2018 年にはあがいんの駐車場を使って共催で「みんなのマルシェ」を始めました。ハンドメイドのお母さんたちなど 50 店舗ほどに出店してもらい、地域のチアの子どもたちに踊ってもらったり、マジシャンに来てもらったり…そこで会ったのが高橋さんです。富谷には自由来館できる児童館がありません。そうした子たちの居場所として子ども食堂を始めたいなぁと思って、2019 年の 1 月には AGAIN で子ども食堂（おやこ食堂）「JINA 食堂 - みんなあがいん -」を高橋さんと始めました。



そうやって AGAIN に関わるようになっていって、ある時 AGAIN の運営費ってタダの物を配るだけなのにどこから出るんだろう？ 不思議に思って聞くと、どこからも出ないという事がわかりました…笑。それどころか、この活動を続けるために理事さんたちが借金していると…！！ 衝撃でした。
すごくたいへんな内部事情がわかってきて何とかしなくてはと。そこでこれまで自宅の「ATELIER JINA」に来ていたワークショップの先生やハンドメイドの先生に呼びかけて、活動を全て AGAIN の事務所に移しました。そうは言っても、AGAIN はただの事務所。床はベニヤ板張り、段ボールが雑然と積まれた場所でした。これを少しでも人の入れられるフリースペースにするために、閉店するお店に頼んで什器を買ったり、フロアシートを貼るために募金を集めたり、なんせお金が無いので少しずつ改装していきました。そして収益をあげるために 2019 年 10 月に「AGAIN CAFE」を始めました。売り上げは徐々に伸びていき、一日に 30 名近いお母さんやお子さんが来て賑やかな日もありました。
しかし今はコロナで開けられない状態です。
心に残っている風景があって、仕事を始めたばかりの頃。東京の終電は 12 時過ぎまで走っているのですが夜中の 1 時過ぎなのですが、それさえも間に合わなくて泊まる日もありました。入ったばかりの頃は本当に何も分からなくて、ずっとデスクにかじりついていたので気が付いたら一日菓子パン 1 個しか食べてないみたいな事もしょっちゅうでした。勿論帰りに開いている店もないので 24 時間のコンビニしか寄れないのですが、ある時帰り道に店に寄ったら、前に並んでいたサンドイッチなど何個か手に持った人が「カードは使えますか」と店員さんに聞いていました。使えないと分かるとその数点の物が買えなくて買い物をあきらめて店を出て行ったんです。うちの母なら、きっと呼び止めて買ってあげていたと思います。小さい頃、そういう事があったので…
どうしてあげるのが正解なのかは分かりません。でも、今思うのは「自分が出来ることをしよう」という事です。色々な困りごとや大変なことは誰にだって起こります、勿論自分にも。困ったときに困ったと素直に言える世の中にしたいですね。



「宝くじがあたったら…」

富樫 フードバンクは大切な活動で、一介の NPO がやれることではありません。国が体制を整えて委託していくような仕事です。にもかかわらず、県から若干の予算は出てはいますが、ほとんどがボランティアです。シニアの方が遠くへ配達してくれています。事故にあったらどうしようって、いつも思います。交通費を渡しても返してくるんです。「そういうつもりでやってるんじゃない」と。胸にしみます。善意はわかるけど、無償でやるものなのか。それでも思いがあって活動してくれている。いつまで NPO にやらせるのだろう。国が担うべきだと思います。いろんな人の力を借りるには、持続可能なカタチをつくる必要があると思っています。善意にあまえられないというか。



高橋 フードバンクは日本全国にあります。宣伝がうまい団体にはものが集まったり。そうした不平等を横の連携で解消できればいいなと思います。

富樫 いろいろなところで講演をたのまれて行くんですが、フードバンクのことを知らない人が多すぎて。どこまで宣伝したらいいんだろうと思います。そんな中、小1の息子が TikTok で AGAIN の CM みたいな動画を作ってくれて。全然作ってるのを知らなかったんですが、ある日携帯をあげると突如としてその動画が出てきて。感激ですね。

高橋 うちでは息子が「宝くじあたったら AGAIN 買い取ってあげる」なんて言っています。私たちがなんかいいことやってるということを、そんなふうになんか見守ってくれているんだと思います。



あがいんの
こども食堂にようこそ！

ご支援いただいている
企業・団体さま



あがいんのこども食堂はいつ始まったの？

2019年の1月、雪が降り積もる寒い冬休みの日に始まりました。
夏の暑い日も、冬の寒い日にもずっと外で遊んでいる子どもたちを見て、子どもたちが集まれる場所が必要だと始めたのがきっかけです。子どもには三つの間が必要だと言われています、「仲間、時間、空間」。
この三つの間は、どれも子どもたちにはかけがえのないものです。
どれか一つが欠けても、思う存分遊ぶことやその中から得る喜びや悲しみを体験することは出来ません。自分の子どもたちも含めて、あがいんは子どもたちが誰でも歓迎される場所でありたいと思っています。

あがいんのこども食堂での苦労話は？

最初はただの事務所だったあがいんには調理器具も無く、参加してくれるお母ちゃんたちにボウルや包丁を持って集まってもらい、卓球台を調理台代わりにして煮炊きをしました。
また食材は近くのスーパーや知り合いに協力を募るため、一緒に始めた高橋・富樫が飛び込みで色々な企業やお店をまわりました。
「フードバンクと一緒に食材には困らないだろう」とよく思われていますが、当時は困っている人に食糧支援する常温の食糧さえほとんど無く、またこども食堂で欲しいお肉や野菜などの生鮮食品はあがいんでは扱っておらず、自腹で食材や調理器具を買って一から始めました。
そうした中でお野菜を譲ってくれたのが、当時あがいんの目の前にあったお花屋さん「グリーンステーション」さん。お肉を譲ってくださったのが「高平精肉店」さんでした。
グリーンステーションさんからの野菜はおばちゃんたちの手で沢山の色々なおかずになりました。高平さんからは「こども達の食育も兼ねているから・・・」といつも国産の本当に美味しいお肉を提供頂き、初めてハンバーグを作ってお子様ランチにした時の感動は忘れられません。
こうして支えてくださった方たちに対して、私たちが子どもを支える活動をするのはささやかな恩返しだと思っていますし、ここに集ってご飯を食べた子どもたちもきっと沢山の人の手に支えられたことは忘れないと思います。

現在の活動は・・・？

最初は66名の炊き出しがぁちゃんたちと子どもたちで始まったあがいんの子ども食堂は、現在毎月一回、長い休みには何度かというペースで毎回230食ほどのお弁当を配布しています。それまで地域の子どもたちを中心に行ってきた賑やかなこども食堂でしたが、コロナが始まって状況が一変します。私たちも随分と続けるかどうかは迷いましたが、より必要とする人に届くようにひとり親世帯に対するフードパントリーと「やっぱりご飯を食べさせたい」という熱い想いを持ったボランティアさんによって会食は出来なくなってしまいましたが、お弁当を持たせるという活動は継続しています。
どんな時にも柔軟に対応する、出来る事をしていく・・・コロナの中、休止するという道もあったと思いますが、この先もきっと何かが起きてこのスタイルでしびとく続けていくのではないかと思います・・・笑

食べてみたいのですが・・・

S N S (Instagram/Facebook) で毎回予約を受け付けています。
ご予約お待ちしております！
Instagram <https://www.instagram.com/minnano.mar2018/>
Facebook <https://www.facebook.com/foodbank.tohoku.again/>

ふうどばんく東北 AGAIN は皆様のご協賛・ご協力により運営されています。
ここでは寄付を始め、倉庫の提供や日頃より当団体の活動にご尽力いただいている企業・団体さまを一部ご紹介させていただきます。



代表あいさつ

理事紹介

当団体の活動理念は、昨今よく耳にする SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の 15 の項目と合致するものが沢山あります。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
11. 住み続けられるまちづくり
12. つくる責任 つかう責任



こうした事から分かるのは、ふうどばんく東北 AGAIN が行う活動が、ただ単に困った人を救済する活動ではないという事です。つまりは、すべての人が住みよい持続可能な社会にするための足掛かりであり、全ての人が関わる未来のためへの投資であり、支援であるという事です。ここで開催される「JINA 食堂一みんなあがいんー」に参加してくれる子どもたち。

そこに来る子がある日ママに言ったそうです。「食堂はディズニーランドより楽しい！」と。

また 4 歳のある子に「あがいんってどんな場所？」そう聞いたことがあります。

そうしたらこう応えました。「こどもが守ってもらえる場所」

こどもたちは素直な心で、感じています。

自分たちがここに居てよいのだと。

そうして時に食料を仕分けたり、運んだりのフードバンクのお手伝いもします。実に素敵なことです。小さな時から沢山の大人たちに見守られて、そして自分も自然と人の助けになり、そうして育っていった子どもたちがどんなに素敵な大人になるか想像してみてください。

私たちはこの場所が食料を配る拠点としてだけではなく、時に子どもたちや親御さんの拠り所となり、時に命を繋ぐための最後の砦となるように皆様のご協力をお願いしたいと思います。

NPO 法人ふうどばんく東北 AGAIN 代表 地主雅信



地主雅信さん

ホームレス支援を行っていた立岡理事長から紹介され活動に加わり、現在に至ります。あがいんの活動を支える裏方として日々忙しく、なかなか皆様にお会いできず申し訳ありません。平素より格別のご支援ご協力を頂いている皆様に心より感謝申し上げます。これからも皆様の暖かいお気持ちを一人でも多くの方々にお届けいたします。



深野せつ子さん

いつも現場の皆さんに感謝しています。苦しい事情を抱えていらっしゃる方々を対象にしている仕事だからこそ、明るく元気よく、丁寧にやれるようにお手伝いできたいと思っています。



白木福次郎さん

若き頃はインターハイ出場経験ありの体育会系理事。その傍らスペシャルオリンピックスや障害者福祉に長年携わり、フードバンクの理事としても活躍してきました。人の 10 倍動く白木さんのことを止まったら呼吸が出来ない「マグロ」のようにと私たちは思っています。(笑)



新沼欽也さん

元々はワンファミリー仙台で、路上生活者を含む生活困窮者の支援をしています。10 数年前の 12 月 25 日にある洋菓子店から売れ残ったケーキの寄附を受け、以前支援したことのあるいくつかの家庭に配ったところ、配った直後に家の中から「ママ、サンタさん来たの？」の声が聞こえ、それ以来この事業にはまっています。



齊藤きえ子さん

コストコの開店がきっかけで、スペシャルオリンピックスの時一緒に活動した白木さんと再会しました。その時からフードバンク活動に関わることになりました。一昨年、いろいろな事情で理事とボランティアで運営していくことになり、そんなところにも心優しいボランティアの方たちが集ってきて、2 年目の現在、富樫・高橋を中心に明るく楽しく活動しています。皆さんも是非覗いてみてください。



富樫花奈さん

いつも応援・ご協力頂いている皆様、ありがとうございます。趣味は庭いじり。最近忙しくて雑草畑になっています。私にとっても子どもたちにとってもあがいんは、第二の家。これから生きる子どもたちにいい世の中を残せるよう私のできることをこれからもしたいと思っています。



高橋尚子さん

いつも暖かいご支援をありがとうございます。趣味は食べることと料理。「食べる事は生きること。」これからも皆さんに暖かいご飯をお届け出来たらと思います。

スタッフからのメッセージ



具志堅美樹さん

毎日沢山の食べ物が捨てられている事がずっと気になっていました。その一方では様々な理由で食べ物に困っている人も沢山いて…どうにかならないものかなと思っていて、フードバンクの存在を知りあがいんに辿り着きました。人生1度くらいならまずは行動することだと思い、今に至ります。



佐藤寛、京子夫婦

妻と2人で参加して早2年(私は3年)。きっかけは新聞の記事。リタイア後、趣味以外することも無く思案していたところ(2人とも仕事人間でした)、あがいんの記事を見て共感!!妻も巻き込み活動しています。



赤井えり子さん

雑誌であがいんの活動を知り参加しています。料理が大好きなので主にキッチン隊で活動しています。美味しいお弁当を作り、子供達に喜んで貰えたらと思っています。今までたくさんの方達に支えられての今日があるので、少しでも子供達を笑顔にするお手伝いが出来たら感謝です。



石塚武和さん

あがいんには、昨年12月からお手伝いさせて貰っています。秋田の実家で野菜作りを行っていて、収穫した野菜などを提供したことがきっかけになりました。生活が厳しい方々への支援を通して厳しい現実を少しでも支える活動が出来ればと思ってボランティア活動に取り組んでいます



荒井俊子さん

家に買い置きしていたわずかな食品を届けに来た時、皆さんの活気と明るさに引き込まれました。30代でシングルマザーになった頃、友人たちが米やパンを届けてくれた時「いつか恩返しをしたい」とずっと思っていました。70代になって、それが出来る「AGAIN」との出会いに感謝です。



北条久也さん

知人からフードバンクの活動がピンチだと聞きました。ちょうど退職して時間がありませんでしたので参加することになりました。現在は自分自身でもこども食堂をスタートさせています!これからも誰も取り残されず、大事にされる社会を目指して活動していきたいと思っています。



富士寶美さん

72歳男性、青森県出身です。65歳で定年退職後、巨木探検の趣味もあり、自然環境を守るため森林ボランティアをしていました。無私の愛で困っている人への奉仕ができないかと思っていたとき、カーラジオでフードバンクの活動を知り、これだ!!と早速ボランティア申込。ぎっくり腰になったり色々大変ですが、食べ物にまで困る人のことを考えるとなんとかしなくてはと生きがいを感じながら活動しています。



永野邦明さん

世界的な食料不足への危機感から、長年に渡り農業研究に携わってきました。その一方で廃棄される食糧の多さにも矛盾を感じていました。実際のフードバンク活動にかかわり日本社会のセーフティネットの弱さも実感しました。皆が安心して暮らせる社会の実現に向けたフードバンク活動に期待しています。



小山清子さん

母子家庭で育った私には「もったいない」という言葉が身に沁みていたので、賞味期限切れの食品が無造作に捨てられている状況を何とか出来ないかと思い、フードバンク活動に関心を持っていました。地元の富谷市に「あがいん」があることを知り、定年退職を機にボランティアとして参加させて頂いています。週1回の活動ですが、社会との繋がりを持ちながら、ささやかでもお役に立てればと思っています。



樽見晃二さん

以前からフードバンク活動には興味がありましたが仕事で少しずつ空きを作ることが出来るようになり、現在お手伝いしています。昨今の子どもたちを取り巻く環境がかなりひどい状況と感じていました。とりわけ「食」は子どもたちにとって大切な事です。少しでも子どもたちに笑顔を取り戻せる日が来ることを願っています。



高橋雅裕さん

毎週月曜朝 6:00 長町発 6:30 より Again 裏で木剣杖の素振り(合気道)1時間。近くの温浴施設で身体を整え、コストコからパン類集荷、Againに戻り、当日の支援先確認配達。これを約5.5年。肩肘張らず今後もこのスタイルで参ります。



佐藤柳子さん

幼いころから料理大好き!ボランティアの日の朝は、ルンルン気分。子どもたちみんな笑顔になるようなお弁当作りを心掛けています。そのための下ごしらえはどんなに時間がかかって手も疲れます。そういう味を伝えたいのです。仲間に入れて頂き、皆さんに感謝です。